

# 最前線

## 脳の健康維持に努め

西能みなみ病院の西嶋美知春院長は脳神経外科が専門である。東北大に学び、後輩には「脳トレ」で有名な東北大加齢医学研究所の川島隆太教授がいる。西嶋院長は「脳トレ」がやったのは、高齢化が進む中で脳への不安が高まっているから。人々の不安を解消することは、医師の重要な役割です」と話す。

### 「あめふらし」に注意

脳に関する人々の不安は脳卒中と認知症が多い。脳卒中については、脳や神経の異常のシグナルを「あめふらし」の言葉で分かりやすく説明している。「あ」は頭痛（あたま痛）、「め」は目まい、「ふ

### 五省会西能病院③ 西能みなみ病院長 西嶋 美知春さん (69)

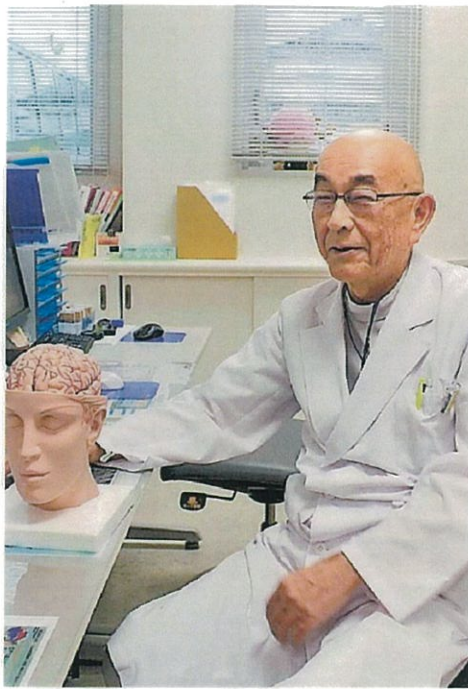
ら」はふらつき、「し」はしびれを指す。「分かりやすいフレーズにすることで、どんなときに病院に行けばいいかが分かりやすくなる」として、無用な心配を拭い去ることにもつながる。

認知症については、2015年に脳神経外科外来を開設した際、「あめふらし」に加えて、物忘れも診察の対象にした。今年には内科医が1人から3人に増え、このうち1人は長年認知症医療に携わった医師である。今年度中には脳

ドッグを強化し、より低コストで質の高い検査や診療ができるようにしていく。

06年、療養型の病院として開設された。急性期の治療を終えた患者のリハビリや慢性疾患の治療が主な役割であり、入院だけではなく、通所リハビリに力を入れる。同じ規模の病院では異例の人数である14人のリハビリスタッフが在籍し、患者が住み慣れた地域で暮らせる環境づくりに貢献する。

西嶋院長は「磁気共鳴画



脳検査について語る西嶋さん  
＝富山市秋ヶ島の西能みなみ病院

像装置（MRI）などの検査の設備がそろっているし、何より職員の医療にかける情熱がすごい。もっと地域の医療に貢献できる力があるはずだ」と考える。住民に外来の門戸を開くだけではなく、西能みなみ病院ならではのニーズに即した医療の提供が課題と感じている。

診療に当たる上で「いつても明るく朗らかに」を心掛ける。「患者さんは安心を求めて病院にやってくる。不安をおおるようなことはしないで、前向きになれるように手助けをしていきたい」。いつも笑顔をやささない明るい人柄で、病院スタッフをけん引する。持論である「21世紀は脳の時代」を忘れず、脳の健康維持に努めている。

にしじま・みちはる

東京都江東区出身。東北大医学部を卒業後、富山医大講師、青森県立中央病院副院長などを歴任。2014年から現職。